英国の大手運営飲食店などで、11月中旬のワイン販売額が6.0％減

NIQによると、前年同期比の減少幅は前週の11.2％減から縮小したが、クリスマス前の需要は依然として弱い。

2026年11月23日（月）



NIQが11月20日に公表したデータによると、英国の大手運営飲食店などにおけるワイン販売額は、11月14日終了週に前年同期比6.0％減となった。クリスマス商戦を前に需要の弱さが続いていることを示す一方、減少幅は前週より小さかった。

この数値は、NIQのDaily Drinks Trackerに基づくもので、同社の調査パネルに含まれる組織的な運営事業者を対象としている。測定対象は販売数量ではなくワインの販売額で、NIQはポンド建ての販売総額を公表していない。

前回の比較可能な集計である11月7日終了週には、ワイン販売額は前年同期比11.2％減だった。つ

まり、前年同期比の減少率は2週間で5.2ポイント縮小した。この変化は、ワインの売上高が週ごとに5.2%増えたことを意味するものではない。各週の数値は2026年の前週ではなく、2025年の同じ週と比較している。

データからは、落ち込みのペースが鈍化した一方で、11月初旬の英国の飲食・接客市場では厳しい状況が続いていたことがうかがえる。ワインの供給業者、流通業者、店舗運営者にとって、この数値は、バーやレストランなど多くの飲食・接客事業者が通常、需要の高まりを見込むホリデーシーズンを前に、消費者がどのように行動していたかを示す初期の手掛かりとなる。

NIQの発表は同社が追跡する調査パネルに限られており、英国全体のワイン販売を網羅するものではない。また、このデータでは販売額の変化を販売数量と価格の影響に分けていない。そのため、顧客が購入したボトルやグラスの数が減ったのか、価格が変動したのか、あるいはインフレが前年との比較にどの程度影響したのかは分からない。

同社はまた、対象期間のワイン単独の累計販売額や、減少分を金額に換算するための基準データも公表していない。そのため、週ごとの前年同期比が業績を示す主な指標となっている。

こうした制約はあるものの、数値は明確な傾向を示している。大手運営の飲食店などでは、11月14日終了週のワイン販売額は前年の水準を下回ったが、減少幅は11月7日終了週と比べて大幅に縮小した。